

めざせ！ 苗場山麓ジオパーク

Vol.
6

振興協議会だより

〔発行日〕平成26年4月10日

〔発行〕めざせ！苗場山麓ジオパーク推進準備室



NPO法人越後妻有里山協働機構 関口正洋氏を講師になじょもん塾開催

なじょもん塾は、ジオパークを基盤に栄村と津南町が新しい地域づくりを推し進めるために、様々な立場の講師を招き、学習し、討論する場を提供しています。

3月31日はNPO法人越後妻有里山協働機構の関口正洋氏を招き、「越後妻有 大地の芸術祭の里 文化芸術による地域づくり」と題して講演して頂きました。その中で「合理性や効率性で計れない価値観」が、この地域にあり、それが「人を繋ぐ」のであろうと指摘されました。その価値が生む「豊かな時間」がこの地域には流れているとも表現されました。その豊かな時間には「いろんな時間」があることにも気が付いていただきたいとも進言がありました。

私たちは現在「ジオ・エコ・カルチャー」の3層構造を捉え、その保全と活用を苗場山麓で進めようとしています。そのカルチャーの中に「大地の芸術祭」が含まれます。「芸術」という概念は、狭義の「絵を描く、彫刻を鑑賞する」という意味を含みながらも、この風土で醸成された人情や営み、郷土料理も見方を変えれば広義の「芸術」に含まれるという新しい指摘に触れることができました。

すなわち、四季折々の景観のなかに溶け込む、或いははまり込む、人々の暮らしとその歴史に芸術性を見つけ出す「心の豊かさ」を鍛える必要があるようです。そして、「内発性の視点が、これから大切である」ことを、最後に関口さんが口にされました。

他力本願ではなく、自発的に地域をめぐり、その素敵を磨き輝かし、それを内発的視点に立ち、地域の「価値観」に誇りを持つことから始めることの大切さを学びました。

ジオパークと大地の芸術祭は、対極にあるようですが、実は広義の「芸術」はすでに私たちも取り上げ、活用論議を深めているところです。さらなる建設的な論議を多くの皆さんと進めたいものです。

神々が30万年かけて作り上げた苗場山麓の自然景観とそれをディスプレイする四季のめぐりは、まさに「大地の芸術」であり、汚さず、大切に保全したいものです。



講師の関口氏



日本ジオパーク申請書を提出しました！

本年度の日本ジオパークの申請書を提出しました。約30頁の申請書と付属資料、新しいパンフレットからなり、作成にあたりたくさんの方々にご協力いただきました。ありがとうございました。

認定の可否は、申請書だけでなく、5～7月に行われる現地審査および普段の活動が審査基準となります。今後も、ガイドブックの刊行や解説看板の設置など実施事項がたくさんありますが、気をひきしめやっていきますので、ご指導・ご協力をお願い致します。



生活改善グループの研修会にて苗場山麓ジオパークについてお話しました

3月19日に津南町生活改善グループ連絡会総会および研修会にて、「苗場山麓ジオパーク」について次のようなお話をしてきました。

30万年掛けて築かれてきた苗場山麓は、大地であるジオを基盤に、植物や動物などの生態環境が分布するエコ環境が広がります。この豊かな自然環境を背景に、私たち人類は、自然を神として畏怖の対象とし、その自然環境を資源の宝庫と認識し、知恵と技術で資源を資材化して、様々な文化を営んできました。



研修会の様子

この苗場山麓には、約8,000年前から多雪化が起り、雪国文化を形成してきました。その雪は、ブナ林などでゆっくりと融け出し、その基盤であるひび割れた苗場溶岩の中を流れますが、その下にある日本海底堆積物には浸透せず、そこが湧水レベルとなって名水が湧き出ます。それが、龍ヶ窪であり、涌井の古池やひゃっぺ池などです。さらに、この日本海底堆積物と中津川の関係で河原でも水が湧くところがあり、それが清水川原です。

この豊かな水は、田畑に引かれ、安全でおいしい生産物を生み、その一部で名酒が醸造されます。また、その水が大地を侵食し、泥水を運び、現在の大地を作り上げました。

近代化した私たちの生活に伴い、排水に変化が生じたことを察した津南町生活改善グループの皆さんは平成6年から、町内各地点で水質調査をされてきました。このデータは、まさしくジオパークを支える貴重なデータです。各年各地点のデータが数字でノートに記録されています。この貴重なデータを図形化して見ることで、注意が向けられます。このような水採取データは、採取したリアルタイム（その時）のデータです。もうひとつ、水質環境を探る方法が、水生昆虫採取による水質検査です。水生昆虫は、水質変化に敏感で、その棲みかを移動したり、絶命したりします。この水質検査を、地域の子供たちと共に行うこと、そして皆さんがこれからも継続くださる科学的水質調査を掛け合わせて、総合的に検討することが必要です。

地域を愛する皆さんと“なじももん”が共に手を取り合い、地域の子供たちと足元の豊かさを確認、体感することを始めましょう。

それが誇りある地域を守り、「持続する環境の中で暮らす」という根源的すばらしさに繋がるものなのでしょう。



苗場山麓ジオパークの魅力を伝える新しいパンフレットが完成しました

ジオサイトの写真や解説を掲載した新しいパンフレットが完成しました。

川のはたらきによってつくられた河岸段丘、そこに覆いかぶさる苗場山の溶岩、そして他のジオパークとは違う「多雪」という環境の中で育まれる自然と歴史文化、それらを分かりやすく伝えるパンフレットになっています。

随時配布予定ですが、ご希望の方は、なじももんまでお問合せください。



COLUMN

大地の息吹と
現代を結ぶ

地滑り地帯～スキー場～

苗場山麓ジオパークの最高のビュースポットがマウンテンパークスキー場山頂にあります。眼下には信濃川が流れ、その支流である中津川が合流します。

左手に中津川左岸段丘が重なりを見せ、左右非対称で右岸には広大な平坦面の段丘が広がっています。

この信濃川右岸はかつて海に堆積した柔らかい地層が隆起してできた物です。その隆起は信濃川に向かって斜めになってます。そのことが原因で、地すべり多発地帯として有名です。長野県北部地震における中条川や辰ノ口の土砂崩れも基本的には地層に原因があります。



スキー場の地形

マウンテンパークスキー場は複数回の土砂崩れの跡を利用したスキー場であり、その斜面をスキーで滑ることは、土砂崩れの崩落斜面を体感していることになります。

めざせ！ 苗場山麓ジオパークのジオサイト

57 の見どころを随時紹介していきます

今井城跡（新潟県指定史跡）



所在地 津南町

種別 文化

今井城は、中津川の左岸、大河信濃川を一望する段丘の突端に築かれた中世の城跡です。源平時代の木曾義仲の家臣今井兼平の城と伝えられていますが、遺構などから天分(1532-1555)、弘治(1555-1558)の頃に城壁が築かれ、戦国時代には上杉氏の番城として戦国末まで使用されたとされます。太平記にも記されている山城で、建物跡は残っていないものの、堀や本丸・二の丸の跡が残っており、現在も当時の面影を残しており、新潟県指定史跡に登録されています。

縄張り、先端部を信濃川が、東側を大門川が深く刻み、西側の領域境には小屋番沢があり自然の要害を利用しています。船首状に伸びる主郭からは、中津川以北の波多岐庄（十日町市域）や志久見川以南の信州市河谷が一望でき、城の真下にあった谷下村（廃村）を通り大井平集落に至る善光寺街道の動きを監視できるようになっています。

巨大な堀り切りや畝形阻塞（うねがたそさい）が特徴的です。畝形阻塞とは、城壁下に迫る敵兵を、傾斜した畝形の障害地区に拘束し、高所より弓、投槍、鉄砲などで倒す防御施設です。

阿部家（長野県宝）



所在地 栄村大久保

種別 文化

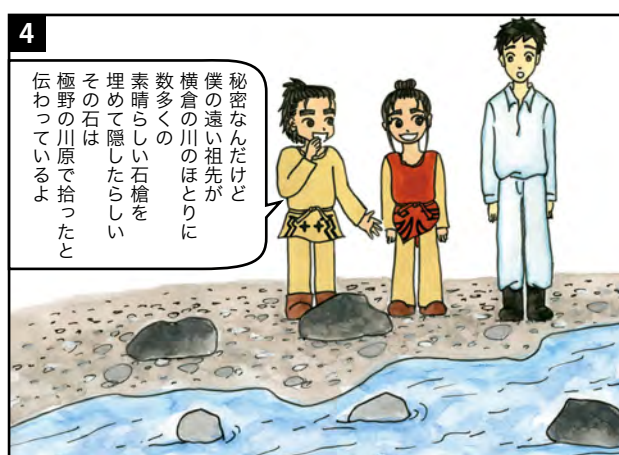
多雪地帯特有の中門造りの萱葺き民家で、長野県宝（指定文化財）になっています。現在も家主が住まれており、希望により見学が可能です。

阿部家住宅は、母屋がL字型に突き出した「中門」に馬屋と便所を設け、中門の先端に主要出入口を設けている点に間取り上の特色があります。

「中門造り」の民家は、日本海沿いの多雪地帯に発達した民家形式であり、長野県では栄村を中心に分布します。

この阿部家住宅は「中門造り」民家の代表的遺構であるうえ、茅葺きの屋根、土間住まい形式など、素朴な民家形式の特色もよく保存されています。また、この住宅はその様式から1750～1770年ころにかけて造られたものと推定され、この地域で最も古い時期に属します。建築意匠的にみても、外観は「中門造り」の草葺き屋根の形式を保存しており、内部には太い柱が数本立って重い積雪に耐える工夫がされるなど、地方的特色が顕著です。

※地質学の学説は複数あり、現在も研究が続いています。そして、本地域の調査研究がこれからも行われる必要があります。



飲食店・商店・旅館向けジオパーク説明会

普段、来訪者と接する機会の多い津南町と栄村の宿泊施設・飲食店・商店等の皆様に、苗場山麓ジオパーク構想の説明会を行いました。今後は、お店等にパンフレットを置いていただき、簡単な説明等の対応をしていただきたいと協議会では考えています。さらに、ジオパーク関連商品の提案を皆様にお願ひし、既にいくつかのご提案もいただきました。

苗場山麓ジオパークの成り立ちを分かりやすく説明したPRビデオを撮影しました

私たちの暮らす苗場山麓の地形やその特色を紹介するPRビデオを撮影しました。なじもんの苗場山麓ジオパーク展示コーナーにあるジオラマを利用し、ジオパーク推進室長の佐藤が分かりやすく説明しています。10分程度の見やすいもので、今後各施設等で来訪者が自由に視聴できるかたちで上映していく予定です。



今後のスケジュール

- | | |
|-----------------|---|
| 平成 26 年 4 月 9 日 | 第 6 回ジオパークガイド養成講座「ジオパークと秋山記行」
18:30 ~ 20:00 会場: 津南町文化センターホール |
| 4 月 18 日 | 十日町市津南町議員合同会議にてジオパーク講演 |
| 4 月 30 日 | 日本地球惑星科学連合大会において公開プレゼンテーション |
| 5 月 17 日 | 第 7 回ジオパークガイド養成講座「太田新田～見玉を歩く」
9:00 ~ 15:00 集合: (仮) 見玉公園 (現地観察) |
| | ※詳細等計画中ですので変更の可能性があります |